

新しい “methodology” への希求

～その困難と意義～

11.28.WED

13:30(13:00開場)～17:25
農学部キャンパス フードサイエンス棟
中島董一郎記念ホール
申込不要／入退場自由

methodology
Methodology
methodology
methodology

どうして、その “methodology”？

実験・調査・データ解析など、何かしらの方法論の習熟に多くの時間が費やされる大学院生。その一方、『研究や行動の目的』を見つめ直し、その上である方法論を選んでいることに自覚的になる、という機会はありませんの現状ではないでしょうか。

本セミナーでは、各分野で「新しい『やり方』」に着手していった方々から、その選択の背景、着手に際し生じた困難、その意義などにつきご講演いただきます。自分の『目的』は何か？そのために選ぶ『やり方』は何か？考えてみる機会にしませんか。

13:40～14:30



M-GTA物語
一質的研究法だから
できたこと

木下康仁 先生
聖路加国際大学大学院
看護学研究科、特任教授

14:35～15:25



課題解決型から
課題発見型への
研究・開発

池野文昭 先生
スタンフォード大学循環器科
Program Director (US),
Stanford Biodesign

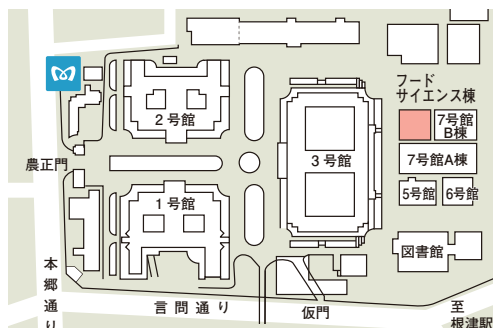
15:30～16:20



「学際」を叫ぶ
矛盾への挑戦
—なぜ京大学際セン
ターに年間10大学以
上が視察に来るのか—

宮野公樹 先生
京都大学 学際融合教育研究
推進センター 准教授
国際高等研究所 客員研究員
博士(工学)

ACCESS フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール



WEB

最新の情報は
[http://www.a.u-tokyo.ac.jp/
event/2018/20181128.html](http://www.a.u-tokyo.ac.jp/event/2018/20181128.html)
をご覧ください。



懇談会

向ヶ岡ファカルティハウス
1階レストラン アブルポア
18:00～20:00

16:35～17:15 パネルディスカッション(全員登壇)

参加に際し、障害等のある方で支援が必要な場合は、11月9日までに下記のメールへお申し出ください。
なお、ご希望に添えない場合もありますのでご了承ください。
主催: Scientific Networking Program 支援: 国際交流促進プログラム
問合先: 野口 志朗 (noguchi-shiro434@g.ecc.u-tokyo.ac.jp)
安田 秋絵 (akie-yasuda595@g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

次回予告 2019.1.8 TUE

2001 ノーベル生理学・医学賞受賞

Sir Paul M. Nurse 講演

農学部 弥生講堂一条ホール